

「おしゃべりは授業中にすると怒られるけれども、社会に出れば役立つこともある。それはどんな仕事だろう?」と講師の男性が問いかける。

「アナウンサー」「セールスマン」「政治家もそうだよ」と答える子どもたち。11月下旬、川崎市立浅田小学校(同市川崎区)6年生の総合学習は、同市のNPO法人「キーパーソン21」による出前授業「すきなもののピンゴ&お仕事マップ」が行われていた。

4人一組の班で夢中になっていることを一つ選び、それに関わる仕事をできるだけ多く書きとめ、数を競うゲーム形式のキャリア教育プログラム。自分の好きなことが様々な



仕事と結びついていることに気づいてもらうのが目的だ。「水泳を習っているので先

No. 1699

教育ルネサンス 働くって、何? 5

地域で育む職業観

生になろうと考えていたけれども、水泳に関わる仕事は予想以上にたくさんあることが分かって楽しかった」と本田

拓海君(12)。坂本稚菜さん(12)は「みんなのなりたいたい仕事も聞け、自分がなりたいたい職業をもっと考えてみたいと思

った」と笑顔を見せた。同法人は2000年、学校のキャリア教育に疑問を持つ保護者らが集まって設立された。代表の朝山あつこさん

(51)は「子どもは学校、塾、家庭という限られた世界で生きており、自分の進路を決めるよりどころが不足している。様々な仕事に就く地域の大人が関われば、子どもが主体的に職業を選べるようになるはずだと考えた」と話す。

会員は、学生30人を含む約250人。首都圏の小・中・高校での出前授業を中心に、個別指導や、企業と連携したプログラムにも取り組む。ファシリテーターと呼ばれる

講師になるには事前に何度も講習を受け、子どもに伝わりやすい言葉遣いなどの指導を受けなければならない。この日の授業でファシリテーターを務めた団体職員の内井章良さん(36)は、大学の就職活動が始まるまで職業と真剣に向き合わなかった苦い経験から、小学校段階からのキャリア教育の必要性を痛感したという。「子どもが社会とのつながりに気づく瞬間に立ち会えるのが、何よりも楽しい」と手応えを語る。



キーパーソン21の講師(左から3人目)の助言も受けながら、「ワクワクすること」に関わる仕事を書き込んでいく児童たち(23日、川崎市の同市立浅田小学校で)

ファシリテーター 物事を円滑に進めるための仲介者、まとめ役などとして、教師に代わって2人一組で授業を進行する。キーパーソン21では1~4級の認定制度を設け、質の高い人材育成に力を入れている。出前授業でメインファシリテーターを3回以上務めると、認定委員会による1級の認定評価を受けられる。

市塚朝子教諭(42)は「教職しか知らない私たちが行うキャリア教育は、ともすれば職種が偏りがち。出前授業で高まった子どもたちの仕事への意識を、これからの学習につなげていきたい」と話す。

将来の夢や職業意識を、地域の大人が運んでいる。(保井隆之、写真も)